



♪図書館イベントの お知らせ~♪

除籍図書&雑誌 リサイクル展示実施中

12月23日(月)まで

図書館で不要となった図書・雑誌を
持ち帰っていただけます

☆展示場所：図書館前廊下

草津東高等学校図書館
本derful!委員 発行
<2019. 12. 18>
12月号 NO. 2
学校ホームページ版

冬休み前 特別長期貸出 実施中!

1月9日(木)まで

借りられます

*新着雑誌・新着マンガ等、
対象外あり

図書館蔵書を借りたい人へ
先着で雑誌付録をプレゼント

「マスカレードホテル」

東野圭吾：著
集英社(集英社文庫)

<あらすじ>

東京で起きた妙な連続殺人事件。現場に残された暗号。次の殺人の舞台はホテルコルシア東京。ホテルのフロントを務める山岸尚美は警察のホテル潜入捜査のサポートを任せられます。山岸はフロントマンに扮する警察の新田と事件の解明に迫ります。

<おすすめポイント>

映画化もされているこの作品は、読んでいてもまったく予想できない展開に驚かされます。特にラストのシーンのドキドキ感とはまらなかつたです。また、ホテルマンから見た客と警察から見た客の見方、考え方の違いもおもしろかつたです。ぜひ読んで下さい。

「罪の声」

塩田武士：著
講談社(講談社文庫)

<あらすじ>

京都でテラーを営む主人公の曾根俊也。自宅で見つけた古いカセットテープを再生すると、幼いころの自分の声だった。それは日本に衝撃を与えた脅迫事件に使われた男児の声と同じ声だった。また、大日新聞の記者、阿久津英士も、この未解決事件を追い始めた。

<おすすめポイント>

この本は今から30年以上前の事件であるグリコ・森永事件を題材にした本です。535ページの大ボリュームで読みごたえのある本だと思います。また、「罪の声」は映画化もされて2020年に全国公開されます。この本を読んだ人はぜひ映画館にも足を運んでください。

冬休み中は休館します。今のうちにいっぱい借りにね!



本derful!委員のおすすめ本

「ノートルダム・ド・パリ」

ヴィクトル・ユーゴー：著
岩波書店(岩波文庫)

<あらすじ>

14世紀のパリ。聖職者フロロ、その容姿から彼によって大聖堂に幽閉され育てられたカジモド、大聖堂警備隊長フェビュスの3人が道化の祭りで出会ったジブシーの踊り子エスメラルダを愛する。エスメラルダとフェビュスは相思相愛の関係になるが、それを憎むフロロは・・・。

<おすすめポイント>

聖職者フロロが、捨て子であるカジモドを育てる聖人から、自分を愛さぬなら殺すという悪人になってしまう様子がなんとも言えません。ディズニーによって映画化・舞台化されています。そちらもぜひ見て下さい。

「ダンジョンに出会いを求めるのは間違っているだろうか」

大森藤ノ：著
SBクリエイティブ

<あらすじ>

ダンジョンと呼ばれる壮大な地下迷宮を保有する迷宮都市オラリオ。人の夢と欲望全てが集まるこの場所で少年は一人の小さな「神様」と、一人の可憐で最強の一角と謳われる「剣姫」と出会う。

どのファミリアからも門前払いだった少年がただひたすらに純粋な憧れを、「憧憬一途」を内に秘め、英雄への道を歩む物語。

<おすすめポイント>

現在原作は15巻、スピンオフ作品である「ソード・オラトリア」は12巻、そしてコミカライズもされている超人気作なので是非読んでほしいです。あと、ベル・クラネル役を松岡貞丞さん、ヘスティア役を水瀬いのりさん、アイズ・ヴァレンシュタイン役を大西沙織さんでアニメも2期まで放送されているのでこちらも必見です。

本derful!講演会より

12月6日(金)1、2年生対象に本derful!講演会を開催しました。講師は昔話研究者の小澤俊夫先生。グリム童話や日本の昔話には本来、どのようなメッセージが込められているのか、またその特有の文法についてお話が聞けました。昔話の文法リズムは陸上を始めとしたスポーツや、音楽とも共通点があるなど、興味深い話題がたくさんでした。「三年寝太郎」の話を聞いて安心したという生徒感想も多かったです。小澤先生の著書や元となっている昔話、童話の本が本校図書館にもありますので、ぜひ読んでください。この講演では司会・進行をはじめ2年生本derful!委員さんが活躍してくれました。

*講演後のアンケート結果は3学期に掲載します。

<小澤俊夫先生の著書より>

『こんにちは、昔話です』(小澤昔ばなし研究所)

↑1、2年生が読んだ本

『改訂 昔話とは何か』(小澤昔ばなし研究所)

『昔ばなしの語法』(福音館書店)

『グリム童話の誕生』(朝日新聞社)





「鳥に単は似合わない」

阿部智里：著
文藝春秋

面白い。

読者の想像を裏切るようなファンタジーストーリーです。

1つの会社で起こった問題が最後につながっていくので、読み始めたら止まりません。

「七つの会議」

池井戸潤：著
集英社

「ぼくは明日、昨日のきみとデートする」

七月隆文：著 宝島社

時間の流れに逆らって進んでいくストーリーがおもしろい。

最初は違和感を感じるけれど、のちのち、なぜなのかわかってきて、おもしろいけど切ないストーリー。

先生におすすめしていただいた本です。短編集で読みやすく、少し不気味な雰囲気がとてもおもしろく、日本っぽくない感じが良かったです。

「オーフランの少女」

深緑野分：著
東京創元社

「まほろ駅前多田便利軒」

三浦しをん：著 文藝春秋

どの登場人物も愛おしく思えます。便利屋の多田と元同級生の行天が偶然再会し、おひとよしの多田は帰る所がないという行天と、自宅兼事務所であるアパートとで一緒に暮らすことになる。便利屋の仕事にもなぜか行天はついてきて・・・。

「ここはポツコニア」

宮部みゆき：著 集英社

ポツになったキャラクターの世界に主人公2人が迷い込む話です。キャラクターがかわいいので見てください。

内容	書名	著者	請求記号
滋賀・京都	京都ミュージアム探訪 アートで知る・感じる・京都市内の美術館・博物館・科学館・宝物館	京都新聞出版センター	069.0-1
	滋賀の平成年表 1989-2019	サンライズ出版	092-1
	マンガで訪ねる近江の能	滋賀能楽文化を育てる会	097-1
	京都ひろいよみ vol.3(2018年4～9月) 京都新聞ダイジェスト	京都新聞社	291.6-1
	京都ひろいよみ vol.4(2018年10～2019年3月) 京都新聞ダイジェスト	京都新聞社	291.6-1
	京都で育まれてきた日本の伝統と文化の真髄 京都造形芸術大学「京都学」	大野木啓人監修 宇野佳男ほか編	702.1-1
時事問題	つながりを煽られる子どもたち ★ ネット依存といじめ問題を考える	土井隆義	367.6-1
	図解でわかる時事重要テーマ100 2021年度版	日経HR編集部	814.7-1
料理	おうちでお菓子 クッキーからフラワーケーキまで	佐藤綾	596.6-1
地域産業	地域人 第49号 創刊4周年記念 特集SDGs×地域創生 巻頭インタビュー 国谷裕子ジャーナリスト	地域構想研究所	601.0-1
	地域人 第50号 特集本屋が楽しいまちが楽しい! 巻頭インタビュー 鎌田薫大正大学地域構想研究所最高顧問	地域構想研究所	601.0-1
	地域人 第51号 特集ふるさとの手仕事と生活道具 巻頭インタビュー ナカオカケンメイ デザイン活動家	地域構想研究所	601.0-1
音楽	プロの現場の機材メンテナンス アンプ、エフェクター、ケーブル、小物など、ギター/ベースを生かすための周辺機材管理術 ★	石原行雄 小倉よしお 監修	763.5-1
	ギターの音作り入門 出したい音を出す! ★	宮脇俊郎	763.5-1
小説/物語	海の見える丘 あなたの未来へ贈る5つの物語	くすのきしげのり	913.6-1
	鬼人幻燈抄 [2] 江戸編 幸福の庭	中西トモオ	913.6-1-2
	ぼくは気の小さいサメ次郎といひます	岩佐めぐみ：作 高畠純：絵	E-913.6-1
	ソードアート・オンライン 23	川原礫	B-913.6-1
新書	鏝喰いビスコ 5	齋久保慎司	B-913.6-1
	「忠臣蔵」の決算書	山本博文	S-210.5-1
コミック	進撃の巨人 30	諫山創	M726.1-1
	はたらかない細胞 3	杉本萌	M726.1-1
	ちはやふる ダイヤのA act2 20	末次由紀 寺嶋裕二	M726.1-1 M726.1-1

★印の本はリクエストや資料相談から入りました。予約も随時受付中！申込みは司書まで。

新書を読んでみませんか？

Q. 新書とは？

A. ここで言う新書とは、B6判よりもやや小型で、入門的教養書やノンフィクションなどを収めた叢書のこと（『広辞苑 第七版』より）。大学入試や就職試験の問題文によく引用されるので、新書を読むことを生徒に奨励している高校が多い。

「未来を生きるスキル」

角川新書
鈴木謙介：著 KADOKAWA

社会はどういう原理でどのように変わろうとしているのか。変化を説明しつつ、協働の価値に注目しながら、「こうやってよくしていこう」という希望を語る一冊。

「給食の歴史」 岩波新書

藤原辰史：著 岩波書店

給食に良い思い出を持つ人も、嫌な思い出を持つ人もいるだろう。時に権力行使の温床となり、経済事情がメニューの質を左右する。給食廃止や民営化の運動がある一方で、給食が貧困家庭の子どもの命綱と化している状況も。歴史をたどり、これからの給食を考える。

「忠臣蔵」の決算書 新潮新書

山本博文：著 新潮社

「忠臣蔵」という名で知られる赤穂事件については、多数の史料が現代に残っている。本書は事件を経済的側面から分析・考察した一冊で、ほかの関連書とは違う視点で楽しめる。取りつぶしとなった藩の四十七士がどうやって資金を工面し、討ち入りを決行したのか。この本を元にした映画が公開中なので、この機会にぜひ。